

令和6年度 学位記授与式の式辞

福井工業大学学長 掛下知行

卒業生の皆様、そして保護者の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。本学を代表してこころよりお祝い申し上げます。また、本日大変お忙しい中ご出席を賜りました、福井県副知事の鷲頭 美央様、また、大阪大学工学研科長の大政 健史様、そして、あわら市長の森 之嗣様をはじめとする多くのご来賓の皆様に深く御礼申し上げます。

今日ここに、学部492名、大学院博士前期課程19名、博士後期課程3名の方々に学位記を授与することが出来たことは、私どもの深く喜びとするところであります。

卒業に当たり、皆様はまず、これまでいつくしみ育ててくださった保護者の方々に深い感謝の念を持ってください。特に、4年にわたったコロナ禍においては、皆様以上に保護者の方々は皆様の勉学環境を整えるためにご苦勞をされてきたことに思いを致してください。そして、これまで支えてくださった先生方、同級生、先輩、後輩など周りの方々にも感謝の気持ちを忘れないでください。今日皆様があるのは、こうした、多くの方々の暖かいご支援のおかげです。勿論、皆様自身が、コロナ禍において頑張ってこられたことが卒業という成果になって表れたことは言うまでもありません。

本日卒業し、社会に出ていかれる皆様方や大学等に残り更なる勉学に励む皆様方に置かれましては、それぞれの分野で活躍し、日本の、また世界の社会貢献と発展に大きく寄与されることを、私ども教職員は心より祈念致しております。頑張ってください。

今日、皆様を送るにあたり、これから皆様が未来を切り開くにあたって考えるべき重要な心構えを3つお話ししたいと思います。それは、夢 持続と努力 無知の自覚です。

初めに、夢を持つことについてお話をします。このことについて、私が感銘を受けた言葉をお送りしたいと思います。それは、(明治維新を成し遂げた幕末の多くの偉人を育て上げた)吉田松陰の言葉で、次のようなものです。

「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」

この言葉は、これから皆様が自分自身の未来を切り開くための支えに少しでも役立てばと思います。夢を抱くことが未来を切り開く原動力となることを説いているものです。この言葉は、クラーク博士の「青年よ大志を抱け」と同じようなもので、私自身振り返るとまさに大きな意味を持っていた、そして今もとても大きな意味を持っている言葉であると強く感じております。

是非、皆様には卒業という人生の門出に当たり、自分の夢を抱き深化させ、実現するように努力していただきたく思います。夢を持つということは、人間にとって非常に大切な事であり、特に皆様のような若い方にはなおさらのことです。

2つ目は、持続と努力です。皆様方が出合うほとんどの問題は、これまで福井工業大学で学ばれた知識と知恵とレジリエンス（すなわち困難に対するストレスの開放能力）、で解決することが可能です。ですので、何事もあきらめずに課題に果敢に挑戦してください。この取り組み心得に対して、皆様方も良くご存じの天才画家パブロピカソは次の言葉を残しております。「できると思えばできる、できないと思えばできない。これは、ゆるぎない絶対的な法則である。」ピカソの様な天才ですら、自らの芸術活動において、様々な問題や課題に直面し、それを、このような考え方で乗り越えて、これまでにない素晴らしい絵画を生み出してきたのです。皆様も、常に、このような考え方と精神をもって、世界の持続的発展に貢献する成果を挙げてくださることを祈念いたします。

最後の3つ目ですが、それは私たち人間はいかに無知であるか、そしてその無知を自覚することが大事だということです。

皆様が十分な学識を身に付けていることは誰もが認めるところです。しかし、皆様自身は謙虚に自分の知識や知恵が十分ではないことを自覚してください。それによって始めて、新しいものを創造することができるのです。これを最初に唱えた人は言うまでもなく古代ギリシャの哲学者、ソクラテスです。ソクラテスは人間の行動の規範である哲学について「無知の知」すなわち「自分が知らないことを自覚し、その自覚に立って真の知を得て正しく行動せよ」と教えたのです。

ソクラテスは哲学の分野でしたが、皆様がこれから進まれる科学や技術の分野でも同様

のことが当てはまります。このことを端的に表す、アイザック、ニュートンの言葉があります。ニュートンは力学と万有引力の理論の発見し、現代の科学と技術の基礎を築いた人ですが、彼は次のように述べています。

英語では、

I was like a boy playing on the sea-shore, and diverting myself now and then finding a smoother pebble or a prettier shell than ordinary, whilst the great ocean of truth lay all undiscovered before me. となります。

日本語に訳すと、私は、海辺で遊んでいる少年のようである。ときおり、普通のものよりもなめらかな小石やかわいい貝殻を見つけて夢中になっている。真理の大海は、すべてが未発見のまま、目の前に広がっているというのにという事です。

あの大科学者のニュートンがこのような言葉を残したことは驚きですが、ここにニュートンの知識と真理についての非常に謙虚な考え方と、彼がこれまでの世界を変えるような理論を築き上げた理由が見て取れます。

科学や技術の分野においても、未発見の真理は大海のごとくあります。私たちはそのほんの一部を知っているのみです。考え方を変えれば、私たちがこれから発見する真理や新しい技術は、ほぼ無限に存在するということです。そして、その新しい創造をするためには、自分たちが如何に無知であるかを十分に自覚し、そのうえでこれまでの知識と知恵を生かして、未知の真理の発見や新しい技術の開発にチャレンジしていくという姿勢が何よりも大切です。勿論そういうことを可能にするのは、皆さんこれまで学んでこられた、知識や知恵であることは言うまでもありません。

夢、持続と努力、無知の自覚についてお話しました。

皆様がこれから参画するコロナというパンデミック後の社会は、社会構造を根本から考え直す必要があるという大変革が起きています。特に、生成 AI の出現がこの社会変革に大きな影響を与えていることは皆様ご存知かと思います（この変革をパラダイムシフト と呼びます。） したがって皆様は、コロナ収束後の社会(Post Corona)の変革の担い手として強く望まれ、そして大いに活躍することができます。いわば、世の中の時代が皆様を必要としていると言っても過言ではありません。したがって、先ほど述べました「夢 持続

と努力「無知の自覚」を心に止めていただき、皆様が、これまで本学で研鑽してきた学術を基に、新たな真理の探求と価値の創造に取り組み、皆様の未来もまた人類の未来も良い方向に変えて行かれることを心より祈念して私の、はなむけの言葉、としたいと思います。

最後になりますが、今年の干支は「乙巳（きのとみ）」で、乙巳は「草木が成長し、繁栄していく年」という意味がありますので、皆様にとって新たな門出として、実に輝かしい年であると思います。

本日はご卒業本当におめでとうございます。